

早稲田大学 教育学部 英語 講評

〔総合分析〕

出題形式	マーク式
試験時間	90分
特徴・その他	大問は5題で、読解問題が4題、会話問題が1題なので昨年と変更点はない。また、量、レベルとも昨年並みである。

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
	英文読解問題 (日本の若者と親指)	空所補充問題のみ。空所の部分の品詞理解と前後の文脈をしっかりとらえれば自ずと正解は出るであろう。	標準
	英文読解問題 (魚の個体数と増加の関係)	空所補充問題、内容一致問題とも紛れのない問題。接続語が狙われるのは特に最近の傾向であろう。図表問題も今後出題される可能性大である。	標準
	英文読解問題 (正しいDNA分析)	設問1.~3.は内容を問う問題であるが、4.は文法・語法問題、5.は派生語問題である。少なからず文法・語法は狙われている。また、5.は教育学部の特徴的な設問となりつつある。	やや難
	会話問題 (空所補充問題)	会話文自体はごく普通のものであるが、選択肢の中に会話表現や会話独特の省略表現がかなり含まれている。したがって、会話表現などに慣れることが重要となってくる。	標準
	英文読解問題 (結婚生活がうまくいく条件)	下線部の内容を問う問題が大半であるが、前後の文脈をしっかりと読まないと正解が出ないようになっている。早稲田らしい問題。	標準

### 〔総合コメント〕

例年通り、教育学部は読解を中心とした問題構成となっている。ただ、会話問題や文法・語法問題も個別に出題されていることに留意しておくようにしよう。早稲田の他学部はかなり特徴的な問題があるが、教育学部はある意味では最もオーソドックスな問題を出していると言える。したがって、特殊な対策はせずに、普通に勉強していくことが大切なことであろう。